



プロジェクト名称

International Communication Project (ICP)

プロジェクト活動概要

■ ICP STORY

今年でICPが発足して3年目となりました。芝浦工業大学の国際交流を学生の視線で活性化するために、これまで活動を行ってきました。現在は3名の外国人学生を含み、約30名の運営者の下で活動を行っております。

ICP is a project which is established 3 years ago and have been acting to internationalize Shibaura Institute of Technology from the student's point of view. Now, we have approximately 30 members including 3 international students operating the project.

■ 活動の目的 The aim of our activities

芝浦工業大学には、様々な国々から留学生が来ています。各国の留学生の持っている文化や情報をシェアし、その国について知り、理解すること、そして同様に日本について留学生達にもっと知ってもらえるようにすることが第一の目的であり、それと同時に留学生の大学生活をより充実したものにするためのサポートも行っています。そして、それらの目的を達成していく中で、私たち自身も国際人として成長できるような団体にしていきます。今年からは大学内での活動に限らず、視野を広げ、他大学とも協力しあって目的を達成していきます。

Shibaura Institute of Technology has a lot of international students from many countries. Thus, our first aim is to exchange stories, experiences, and cultural understandings to know more about each other's country. At the same time, we also aim to provide them a better experiential quality to their gain upon their stay. By doing so, we, ICP, wish to mature to become more international ourselves.

This year, we even started collaborating in order to compete our aim together with other colleges as a result of our attempt to broaden our field of activities or view.

■ まとめsummary

この活動をきっかけとして、さまざまな友達ができるといいと思います。例えばICPには旅行や留学など海外に興味がある人が多く集まっていて、訪問先で得た情報を直接共有できます。それは外から日本に来ている留学生にとっても同じです。たくさんを知りたいと思います。受け入れ場所としての「芝浦」は、“情報を伝える”という意味においてきちんと役割を果たせているでしょうか？ 私達はこれらの問題を解決し、誰にとっても優しく、良い環境が備わっている大学をつくらうとしています。

We wish that ICP can help you to make good friends and spend precious time at SIT. For example, there are many Japanese students who are very curious about oversea trips, foreign cultures and studying abroad. ICP is a great organization for them to exchange valuable information.

The same could be said for international students. SIT should undertake a role to give them more useful information. We're trying to make our school a very helpful and a place with great environment provided.





活動状況報告 & 活動写真など 活動期間：2013年10月 1日～ 12月31日

● ICP&JOINUS AUTUMN TRIP 11月31日～12月1日

立教大学にある国際交流サークル JOINUS と合同で、山梨県に秋合宿をしに行きました。1泊2日と短い時間でしたが、富士急ハイランドへ行ったり、富士山の近くを観光したりととても密度の濃い時間を過ごすことができました。留学生と一緒に1日中過ごすことで普段感じることのできない文化の違いを学ぶことが出来ました。

また芝浦生、立教生との間にさらに広く深い交友関係が生まれ、団結力を強めました。それぞれ国籍が違う留学生が集まったので、日本人学生のみならず、互いの留学生同士も良い刺激にもなりました。今後も他大学と連携した活動を継続していこうと考えております。



● グローバル人材育成フォーラムの参加 11月24日

文部科学省グローバル人材育成事業の一環で、11月24日にお茶の水女子大学で開催された「第1回グローバル人材育成フォーラム」にICPのメンバーたちが参加し、「世界を変えるアイデア」をテーマとしたプレゼンテーションコーナーで芝浦工業大学の代表としてプレゼンテーションを行いました。そこでICPは国際推進課や、工学部の先生方々の指導をいただき、世界をつなぐ新しいSNS(Social Network Service)の提案を劇形式で発表しました。その内容は12月の22日の朝日新聞に掲載され、芝浦工業大学の名前や国際化への取り組みを発信できました。このプレゼンテーションはICPにとってもICPの存在や活動をより多くの人に知ってもらえた機会でもあり、他大学の学生団体の国際化への取り組みを見習う良いチャンスとなりました。



「世界を変えるアイデア」英語で披露
大学交流SNS・共同生活配信…

8大学の学生らは、映像や音楽、劇など多様な表現方法を駆使し、盛り上げた英語のプレゼンテーションで会場を熱くさせた。

目立ったのは、国境を越えた相互理解への熱意だ。芝浦工業大は、世界中の大学が交流できる独自のSNSを、法政大は、異なる国の青少年が国際問題を解決し合う多言語対話ツールをそれぞれ提案。新大は、全ての国連加盟国からの学生が集まって英語を話し、価値観が異なる学生をネット配信する企画を発表した。杏林大は、競争をなくすことを目指す「等身大で考えたこと、困達の課題」をテーマにした劇を発表した。

「等身大で考えたこと、困達の課題」 購読

学生たちの発表に、石井クワシ子・お茶の水女子大教授・立野純二・朝日新聞社編集長・野村浩一が特別ゲストとして参加した。立野純二は「アメリカの学生には共通して、アジアへの強い関心と、人生の目標を懸命に探す態度がある。皆さんも世界を視野に、夢を語ってほしい」と呼びかけた。石井教授は「全ての発表に愛情が込められていた。学生が世界を視野に、夢を語ってほしい」と語った。

「世界を変えるアイデア」英語で披露
大学交流SNS・共同生活配信…

8大学の学生らは、映像や音楽、劇など多様な表現方法を駆使し、盛り上げた英語のプレゼンテーションで会場を熱くさせた。

目立ったのは、国境を越えた相互理解への熱意だ。芝浦工業大は、世界中の大学が交流できる独自のSNSを、法政大は、異なる国の青少年が国際問題を解決し合う多言語対話ツールをそれぞれ提案。新大は、全ての国連加盟国からの学生が集まって英語を話し、価値観が異なる学生をネット配信する企画を発表した。杏林大は、競争をなくすことを目指す「等身大で考えたこと、困達の課題」をテーマにした劇を発表した。

「等身大で考えたこと、困達の課題」 購読

学生たちの発表に、石井クワシ子・お茶の水女子大教授・立野純二・朝日新聞社編集長・野村浩一が特別ゲストとして参加した。立野純二は「アメリカの学生には共通して、アジアへの強い関心と、人生の目標を懸命に探す態度がある。皆さんも世界を視野に、夢を語ってほしい」と呼びかけた。石井教授は「全ての発表に愛情が込められていた。学生が世界を視野に、夢を語ってほしい」と語った。

「世界を変えるアイデア」英語で披露
大学交流SNS・共同生活配信…

8大学の学生らは、映像や音楽、劇など多様な表現方法を駆使し、盛り上げた英語のプレゼンテーションで会場を熱くさせた。

目立ったのは、国境を越えた相互理解への熱意だ。芝浦工業大は、世界中の大学が交流できる独自のSNSを、法政大は、異なる国の青少年が国際問題を解決し合う多言語対話ツールをそれぞれ提案。新大は、全ての国連加盟国からの学生が集まって英語を話し、価値観が異なる学生をネット配信する企画を発表した。杏林大は、競争をなくすことを目指す「等身大で考えたこと、困達の課題」をテーマにした劇を発表した。

「等身大で考えたこと、困達の課題」 購読

学生たちの発表に、石井クワシ子・お茶の水女子大教授・立野純二・朝日新聞社編集長・野村浩一が特別ゲストとして参加した。立野純二は「アメリカの学生には共通して、アジアへの強い関心と、人生の目標を懸命に探す態度がある。皆さんも世界を視野に、夢を語ってほしい」と呼びかけた。石井教授は「全ての発表に愛情が込められていた。学生が世界を視野に、夢を語ってほしい」と語った。



● Go Global Japan Expo 12月15日

早稲田大学でグローバル人材事業の一環として行われた Go Global Japan Expo に芝工大の教職員、学生プロジェクト IOG のメンバーと共に大学を代表して参加しました。ICP メンバーによる学生の観点から見たグローバル化についてのプレゼンが、来場者から好評を頂きました。芝工大のグローバルに向けた取り組みを外部に向けてアピールできたと共に、私たち ICP の目指すグローバル性を再認識できた良い機会となりました。今後も、大学と連携した活動を行っていきたいと考えています。



● 国際学生寮での Christmas Party 12月24日

国際学生寮でクリスマスパーティーを行いました。ICP や芝浦工大の交際交流サークルである SISA に所属するメンバーだけではなく、留学生や国際寮生などたくさんの方にご参加いただきました。みんなでサンタの赤い帽子をかぶりながら、ごはんやケーキを食べ、ゲームをしました。今回特に力を入れたイルミネーションは大変綺麗でした。また、サプライズゲストとして、サンタも登場し、とても楽しい時間を過ごしました。来年もぜひ行いたいと考えております。



今後の活動計画、目標、意気込みなど

今年度も残すところわずかになりましたが、より一層充実した活動を行っていかうと考えております。1月以降は他の学生プロジェクトと共同でイベントも行う予定です。ICP の今後の活動にも、ぜひご期待下さい。